

飯山北コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 5 年 8 月 17 日（木） 午前 10 時 00 分～11 時 40 分

場 所：飯山北コミュニティセンター

参加者：15 名

担当者：市長、地域担当職員 片山（飯山市民総合センター）・小林（中央図書館）、堀瀬（高齢者支援課）、塩田（広聴広報課）、中原（広聴広報課）

1. あいさつ

（市長）

市長になって 2 年 4 か月、日々元気なまちづくりに取り組んでおり、これも皆様のご理解とご指導のおかげである。コロナが明け、経済も活発になっている中、飯山コミュニティではコロナ禍においても様々な工夫をしながら、まちづくりのために日々尽力されていることに心から敬意と感謝申し上げます。本日は飯山北コミュニティならではの実状や活動を伺い、皆様の力が生かせるまちづくりを進めたい。

（会長）

市長には日頃からコミュニティ活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。皆さんには忌憚のないご意見をいただき、本日はざっくばらんに意見交換していきたい。

市長には、コミュニティ活動に対し、今後ご理解いただけるようお願いして挨拶とさせていただきます。

2. 第 1 部 コミュニティ活動の紹介・意見交換会

（会長）

飯山北地区は旧飯山町の北部に位置し、ベッドタウンとして発展した地域である。また、旧飯山町役場（現飯山市民総合センター）があったことから、文教施設や体育施設などの公共施設も整っており、国道 438 号線や大東川、楠見池、飯野山などがある。国道 438 号線が開通したことで大きな施設が進出したり、宅地造成も進んだり、水田の宅地化が進んでいる。

全国的には高齢化、人口減少が問題となっているが、その中でも本地区は合併前とほぼ同じ人口で推移しており、今後も地区の人口は現状維持か少し増えるのではないかと見込んでいる。しかしながら、高齢化問題や南海トラフ、台風などの災害対策については、本地区でも取り組んでいかなければならない課題と考えている。

これら現状と課題に対し、飯山北コミュニティとしては、「自然と調和のとれたまちづくり」、「健やかに暮らせるまちづくり」、「心豊かなひとをはぐくむまちづくり」、「みんなで助け合うまちづくり」、「みんなが参加するまちづくり」の 5 つの目標を掲げ、コミュニティ活動を行っている。

具体的な取り組みとして、1つ目の「自然と調和のとれたまちづくり」については、国道や河川などのインフラ整備がある。これについては、行政に対して早期完成に向けたお願いをしたい。このほか、地域内環境美化事業として、自治会単位で地区内の一斉清掃活動を行っている。

2つ目の「健やかに暮らせるまちづくり」では、住民の安全安心、財産を守る環境整備を進めている。食と健康の問題は食生活改善協議会が活発に活動しており、健康料理教室の開催、ぼかし作り、マイ箸の推進運動などを行っている。また、昨年度には飯山北地区の防災計画が完成したので、これに沿った防災訓練やこども向けの防災教室、備品整備についても行っていく予定である。さらに、婦人防火クラブでは県内研修などへの参加、自主防災部会では家具転倒防止器具の取り付けなどの啓発活動も行っている。

3つ目の「心豊かなひとをはぐくむまちづくり」では、希望する人には何らかの学習の機会を提供できるよう生涯学習の推進や、体育祭、はんざん桃源郷まつり、坂本念仏踊りの保存に取り組んでいる。また、今年から敬老会がなくなることに合わせて、敬老の集いだけでなく体育祭なども形を変えていきたいと思っている。

4つ目の「みんなで助け合うまちづくり」では、出かけるのにタクシーを必要とするなど、高齢者が生活しづらい状況を受け、昨年から「いきいきおでかけ便」を行ったり、高齢者の居場所づくり事業として、古民家を改修した「カナマルハウス」で、いきいきサロンを開催したり、南部地域包括支援センター職員の指導のもと、認知症予防の取り組みを行っている。また、飯山中学校で地域学校協働本部というものを組織し、飯山北小学校・飯山南小学校・飯山中学とそれぞれの地域が協力して、子どもの学習支援活動に取り組んでいる。昨年、飯山北小学校は福祉体験学習や防災教室を開催した。放課後児童クラブも平成22年頃から行っており、今もわんぱく学校と名称で飯山北小学校の子どもの対象に継続しており、文部科学大臣表彰も受けた。

最後の5つ目は、「みんなが参加をするまちづくり」。飯山北地区ではコミュニティだよりを年4回、自治会に限らず全戸配布している。また、飯山北コミュニティのホームページでも地区内の行事を随時発信している。新型コロナでオンライン研修が増えたり、マイナンバーを推進したりと、国ではデジタル化が進められている。飯山北コミュニティでも今年からデジタル化を推進していきたい。

飯山北地区ではこういった取り組みを行っている。本日はその中から、高齢者の生活支援事業と放課後児童クラブ「わんぱく児童クラブ」の活動について、連合自治会長から詳しく説明させていただく。

(連合自治会長)

高齢者生活支援事業として、おおむね65歳以上の高齢者を対象に、自宅から目的地まで軽自動車による送迎を行っている。火曜と金曜日が運行日。免許証を返納した方などから好評いただいている。運転手や利用者の確保など課題もあるが、運転手は少しずつではあるが

増えてきている。

高齢者支援として、まず「たすけあい飯北」と呼んでいる高齢者の困りごとを手助けする事業を行っているが、多岐にわたる困り事に対応できる人材確保などが問題。また、「ふれあいいいきカナマルサロン」では、高齢者の居場所づくりと地域の交流を目的に「カナマルハウス」では月 1 回の健康体操、詐欺防止の DVD 上映、うどん作り体験、3 世代交流、お菓子作り、コスモス畑の種まきなどを行っており、参加者どうし月 1 回交流している。こちらも多様な活動に協力してくれる人員の確保が課題。

こども会に代わる子育て支援事業の放課後こども教室「わんぱく楽校」では、飯山北小学校協力のもと毎年 4 月に参加募集のチラシを配り、子どもたちに登録してもらっている。今年は 50 人程度の登録があった。活動としては体験活動が中心で、サツマイモやスイカの植え付けや収穫、キャンプ飯づくり、キャンプマナーの学習、丸亀天文クラブによる夏の星空観察会など、年間 10~12 程度のイベントを行っている。スタッフの高齢化もあるので、参加者の保護者などにも呼びかけ、若いスタッフの確保に努めたいと思っている。

(会長)

今回コミュニティからは第 1 部として「国道 438 号線の早期完成と大東川第 2 次計画の早期の着手」、「飯山北地区の連合自治会で取りまとめた、単位自治会での困り事」、「飯山北コミュニティセンターの建て替え」、以上 3 つの質問・要望を行っている。

(市長)

1 点目の「国道 438 号線の整備」と「大東川の改築」については長年の課題であり、私が市長になってからも、県や国を訪れるたびにお願いしてきてきた。先日の市長会でも知事や議長などに会って、その話をしたところである。

「国道 438 号線」については令和 9 年度の全線 4 車線化を目指しており、県には引き続きしっかりと要望していきたい。市長会では坂出市長が「昔は飯山町民が坂出市へ買い物にきていたが、今では坂出市民が飯山町へ買い物に行く」と話していたが、これには同感で国道などインフラ整備によるところが大きいと思っている。そこで国道 32 号線から南についても整備を進めてもらうようお願いしていたところ、今から約 1 か月前にその確約をいただいた。また、「大東川の改築」についても、安心安全なまちづくりには欠かせない事業である。近年は大雨が長時間続くなど、河川氾濫のリスクが高まっているので、事あるごとに県にはお願いしている。今年度の公表に向け、県では改築区間を延伸する第二次整備計画の変更案を現在作成している。地元の要望をしっかりと把握するよう県には伝えたい。「国道 438 号線」、「大東川」の整備は、市にとって地域の利便性や防災力向上には大変重要な施策。1 日でも早い整備を、県には引き続き要望していきたい。

2 点目の単位自治会からの要望については、業者に依頼するなど順次進めていると、片山飯山市民総合センター所長から聞いている。ただし、草木の伐採や道路の拡張など一部私有地

が絡む箇所については、土地の所有者との協議が必要となるので直ちに切り掛かるということが難しい。ご理解いただきたい。粗大ごみの不法投棄や通学路、空き家管理などについても、市が窓口となって国や県、警察などと連携して対応したいと考えているので、具体的な事案が発生したら、担当課もしくは地域担当職員を通じてご相談いただきたい。

3点目の飯山北コミュニティ改築事業については、今のところスケジュールに変更はない。今年度に設計を完了させ、令和6年度初めに建設工事の発注ができるよう進めている。財源の確保に努め、スケジュールに沿った整備を行っていく。今ほかの事業では工事が遅れる傾向にある。資材はなかなか入ってこないし、価格も想像を絶するほど高騰している。さらに働き改革で建設業・土木業ともに休日をしっかりと取るようになってきている。こういったことにも対応できるよう無駄をなくしたうえで、市としては財源確保に努めたい。

(コミュニティ1)

特に3点目のコミュニティの改築工事の件については特に願います。

3. 第2部 テーマ選択方式による意見交換

(所長)

第2部のテーマとして「地域の支えあい（地域福祉）」を選択した。

会長からの話でもあったように、災害や高齢者支援、不登校対策についてはコミュニティとして重要と考えている。今以上にどういったことができるか考えていきたいと思い選択した。これらを推進するため、現在地域で取り組んでいる事業、今後予定している事業は、先ほど紹介したとおりである。

また、「飯山地区では、文化財マップを作成し、貴重な文化財の啓発周知をしたが、飯山地区における文化芸術と生涯学習活動について市の取り組みや今後の予定を教えてほしい」という質問に対しては、「飯山地区における文化芸術と生涯学習活動としては令和4年度にこども園や幼稚園、保育所、小学校を対象に行った現代サーカス公演のような文化芸術に触れてもらうアウトリーチ事業を今後も取り組んでいく。また、生涯学習活動については、市民学級や家庭教育講座、地域いきいき講座、地域学校協働活動など各種事業を行っており、今後も生涯学習推進員や地域コーディネーターが活動しやすくなるよう支援をしていきたい。」という回答をいただいた。

(コミュニティ2)

2点ほど質問がある。

1つは施設名称について。飯山市民総合センター、飯山総合運動公園、飯山総合保健福祉センター、飯山総合学習センターなど、現在公共施設に「総合」と付くもの複数ある。「総合」という言葉がついた経緯は分からないが、合併して17年も経っているのに「総合」という言葉を未だに残す必要があるのか。費用をかけることなく、折を見て「総合」を取って

はどうか。

2つ目は、孤立孤独問題について。飯山北地区は80歳以上の方が約1000人いる。実に10人に1人が80歳以上。5年後、団塊の世代が加わるとものすごい数字になる。「おでかけ便」などで会う人は元気かどうか分かるが、それ以外の人は私も知らない。この地域でも2名の方が孤独死で亡くなった。そういった現状を回避しないといけない。私の子どもが住むカナダでは、認知症の高齢者宅に週に3回友人が訪れる。近所付き合いは日本より進んでいる。日本も昔はそういった近所付き合いがあり、お節介する人も多かった。私自身もそういった付き合いがなく、おでかけ便でお話するくらい。じくじたる思いがある。

お出かけ便で、過去私の1日の売り上げの最高は3200円。送り迎えは往復なので単純に2で割ると、1日に16人送り迎えした計算となる。これはかなりの数。おでかけ便にはそれだけの需要があるということ、市長には分かってもらいたい。

(会長)

地域包括支援センターでは協議会組織をつくり、高齢者を支えるため、この地域でどういった取り組みをすべきか検討している。市全体でも同じように協議会組織を立ち上げて、関係者が知恵を出し総合的に検討していただきたいと思う。

(市長)

「総合」という言葉をどうするかについては、結局「総合」という言葉があったほうがいいという結論になるかもしれないが、予算のかからない方法で検討していきたい。

孤立孤独問題についての解決策は、やはり地域の人たちがどれだけつながりをもてるかということに尽きると思う。現状、民生員の皆さんが中心になって取り組んでいただいているが、全てボランティア。こういったボランティアの人たちが増えていくような地域づくりをしていかなければならないと考える。この地区は市の中でも地域のつながりが強い地域だと思う。本当にありがたい。これを一層進めて市全体に広げるしかないと思っている。

また、一人暮らしの高齢者については個人情報やプライバシーの問題はあるが、高齢者のお宅を訪ねて気軽に声を掛けられるようなればと思うが、実現させるのは難しい。皆様からもいいアイデアをいただきたい。

(コミュニティ2)

市長が先頭に立って解決するという姿勢を見せることが重要だと思うので、よろしくお願ひする。

(市長)

はい。

(コミュニティ 3)

民生委員、福祉ママなどの担い手がない。民生委員は75歳が定年だったが、3年延長された。しかしながら、若い人は働いており後継者不足を心配している。後継者づくりにいい方法があれば教えてもらいたい。それと要支援者情報について。要支援者情報は個人情報保護の問題で、民生委員は教えてもらっているが、それ以外の人は知らされていない。災害時に民生委員だけで助けるには無理がある。しかし、一般の人は、近所付き合いがないので困っている人がどこにいるか知らない人。自治会の中でも情報が共有できていない。要支援者マップというのがあり、福祉課からはもう少しで完成すると聞いているが、それを電子化してほしい。ハザードマップも入れ、どこに要支援者がいるか分かるようにしてもらいたい。個人情報の問題があるので、どこまで出せるかは市で考えてもらいたい。災害などが発生した時にはみんなが利用できるようにしてもらえると助かる。

(堀瀬課長)

マップの電子化は福祉課で進めており、今後情報提供できるようになると聞いている。

(コミュニティ 3)

マップ公開は災害時だけだと思うが、平時でも困っている人を助けるために活用できればと思う。

(市長)

議員時代、困っていることがあれば地域の民生委員さんに情報を伝え、一緒に入っていただいて困っていることを解決していただいた。民生委員の後継者不足でお困りなのは、私も探してお願いしていたので、よく分かる。民生委員は仕事で第一線を退いた方が大体なられている。今は少しずつであるが、仕事をしながら民生委員もやっていたり人も増えてきた。民生委員や福祉ママを確保すべく、そのような方々にもなっていただけるような仕組み作りを考えていきたい。

要支援者マップについては作成中と報告を受けている。出来上がった際には個人情報の観点からどこまで公開するのかということが問題になると思う。一方、本当に困っている人を助けるには公開が必要と考えるので、皆さんに理解してもらえよう進めていきたい。

(コミュニティ 4)

丸亀市の自治会加入率は4割前後。大災害などが発生した時、自治会に入っていない人が好き勝手言って、避難所などが混乱することを心配している。自治会の加入率を上げる方法を本気になって考えてもらいたい。

(市長)

議員時代から、自治会加入率のことは気に掛けていた。それ以降も加入率はずっと下がっ

てきている。私も自治会に加入したほうが良いと思う。自治会に加入したら得ることがいっぱいあるとなれば加入率も増えるが、納税者に対して自治体は平等に対応をしなければならない。自治会加入者だけに特典を与えるという事はできない。人口減少時代に突入している中、長い目で見ると自治会で独居のお年寄りを支えるというのが自治会に加入する一番のメリットだと思う。現時点で実現するいい方法は見つからないが、そういった考え方にシフトするようしていきたい。皆様にもいいアイデアがあればご指導いただきたい。

(コミュニティ 5)

市長に就任して2年4か月。新型コロナやマイナンバーの問題に積極的に取り組まれたと思う。コミュニティからの質問については明るい回答をいただき、私も元気でいなければと感じた。市長も健康に気を付け、活躍していただきたい。広報8月号に掲載されていたヴィリッヒ市との姉妹都市締結の記事に関心を持った。明るい話題なので市長から紹介していただければと思う。

それと、毎月掲載されている「市長だより」は、市長の思いが聞けるので興味をもって読んでいる。ぜひ続けていただきたい。コロナで久しぶりの市長懇談会。楽しみにしていた。市長の若さで、市の発展のために頑張ってもらいたい。

(市長)

市長になって初めての市長懇談会が飯山北コミュニティである。緊張していたが、皆さんが温かく迎えてくれたことに感謝している。

ヴィリッヒ市との姉妹都市の話は、12年前の新井市長のときに初めてあった。私が市長になって初めてヴィリッヒ市長にお会いし、姉妹都市を提携しましょうと言われたとき、即座に「わかりました」と返答した。そしてドイツでの調印式のためヴィリッヒ市を訪れ、本当に行って良かったと感じた。現地に行ってよくわかったのが、ヴィリッヒ市は農村地帯であるということ。そこから車で2、30分のところにデュッセルドルフ空港という大空港があり、まちの真ん中には1本の高速道路が走っている。また、ヴィリッヒ市は数十年前から工業地帯をつくるのに力を入れており、企業の税金も安くしている。日本企業は33社あり、どこも成功している。ヨーロッパのど真ん中で交通が便もよく、市場調査をするのも都合がよい。それと、ドイツ人は日本人に負けないくらい真面目で人柄もよい。企業は市場調査でいけると判断すると工業地帯の中に倉庫をつくり、東南アジアや日本から品物を輸入し、そこを起点に商品を配送している。今後ヨーロッパに進出したいという企業には、ヴィリッヒ市を紹介していきたい。長い目で見ても、今回ヴィリッヒ市と姉妹都市締結をして本当に良かったと思っている。

(コミュニティ 6)

飯山は農事組合法人も多く農業が盛ん。米づくりに対し、市が助成くれてありがたく思っ

ている。ただ、農事組合法人も高齢化でメンバーが減り、共同作業ができなくなりつつある。こういった状況に対し、こういった支援ができるのか今後検討していただければありがたい。

(市長)

私も6年前まで3反6畝ほど米を作っていた。一生懸命やっていたが利益は上がらなかった。日本の食料自給率37%に対し、ほかの先進国は80%を越えている。いざというときは困るとずっと思っている。市長となって、丸亀独自の支援もしてきたが、国からのコロナ支援もあったのでできたところはある。コロナも落ち着き、国の支援も少なくなるが、丸亀独自の農業支援は必要と考えているので、皆さんのお話を聞きながら、引きつづき取り組んでいこうと思っている。

(コミュニティ7)

子ども3人まだ結婚していない。解決する方法を教えてください。

(市長)

丸亀市では今年度、婚活のマッチング事業を行う予定で、来年度も予算化していきたいと考えているので、ぜひお子さんにも紹介していただきたい。

(コミュニティ7)

丸亀市の税金で全期前納した際の、税額の割引がいつからかなくなってしまったが、復活できないか。

(市長)

どのようになるかは分からないが、税務課にも話をしてみる。

(連合自治会長)

いろいろな課題もあるが、新しいコミュニティセンターができれば、安心安全なまちづくりにつながると思う。建設を契機に、様々な問題を考えていく足掛かりにできればと思う。本日はお忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。